

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

～住んで楽しい米子市をめざして～

米子のまちで、仕事に遊びに、人生をたっぷり楽しんでほしい！
そのためには、市民のみなさんのワーク・ライフ・バランス*が大切になってきます。

※働くすべての人々が「仕事」と、育児、介護、趣味、学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」と調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方

そこで、広報よなごでは、7月から10月までの4回にわたって米子市内のさまざまなワーク・ライフ・バランスの取組みについて紹介しています。

■問合せ 男女共同参画推進課 (☎23-5419、☎23-5392)



ネギポの

それ、いいがん!!

第2回

第2回は、米子高島屋におじやまして、長谷川副店長さん、内山係長さん、高橋さんにお話を伺いました。
——米子高島屋さんの業務内容について教えてください。

長谷川さん 米子高島屋は昭和39年4月1日に開店し54年間、長く米子に地域密着型の企業として生業をしてきました。90年代バブル崩壊とともに近年は、やはり非常に経営が厳しくなっています。そういった中で地元雇用をきちんとして生業を立てることを一番の目標としてやってきました。地元に貢献といってもそう大きなことはやっていませんが、米子市内でも何か所か移動販売をしています。ご年配の方々でなかなか買物に出られない人たちに喜んでいただいております。本通り商店街の中の高齢者住宅「まちなか」にも移動販売しているんですよ。今後もできるだけ米子市に貢献したいですね。中心市街地が少し衰退しているところもあるようですが、昨年12月末には東館を米子市に寄付し、これの一つのきっかけにしてもう一度中心市街地を商店街と一緒に盛り上げていきたいと思っています。



「いろいろな制度をつくってワーク・ライフ・バランスを図ってます」と語る長谷川さん

——米子高島屋さんの、ワーク・ライフ・バランスの取組みについてお聞かせください。

長谷川さん うち、2010年くらいから人事制度の中で取り組んできています。1つ紹介しますと、スクールイベント休暇、学校のイベントに参加してもらうための休暇があります。学校に通っている子の親、また孫のいる祖父母に有休と別に2日あります。それから、ワーク・ライフ・バランス休暇もあります。

——そのものずばりの休暇ですね。どんなときに取れるんですか？

高橋さん プライベートで大切な用事するときですかね。自分の親とのイベントですとか。

——何でもいいんですか？

高橋さん そうですね。お任せなんです。

——言葉自体が身近なものになっていくといいなと思ってるので、ワーク・ライフ・バランス休暇っていうストレートな名前が、とってほしいなと思います。
高橋さん 取得しやすいですよ。



「育児勤務を利用して子育てと両立を図ってます」と語る高橋さん

長谷川さん これも昨年全員が取っています。昔は仕事仕事でしたが、今の人はまず自分の趣味とか生活を充実させたいとアンケートなどでも出ています。それに応えないと優秀な人材に来てもらえないですからね。こういった企業側の思いもあってワーク・ライフ・バランスは大きな柱です。今後は個々で働き方を考えなければいけない、例えば思い切った業務をやめる部分とかね。そうやって時間を作っていく。生産性を高めてワーク・ライフ・バランスをさらに充実させていくイメージです。

——今仕事をしておられる中で、仕事とそれ以外の生活のバランスについて、日々感じておられるようなこと

とがあればお聞かせください。

高橋さん 育児勤務を取得させていただいているんですけど、余裕をもって保育園にお迎えに行つて、それから帰って家事をしてというようなことができるので、とても助かっています。例えば、子どもが突然熱を出したとかで保育園から連絡があったときに、職場の中で（制度が）浸透しているので相談しやすいですね。いきなり休みを取らせてくださいというところもあるんですけど、皆さん休んでいいよみたいな感じで、すごく働きやすい環境を作ってもらっていると感じます。

内山さん 今、育児勤務の人も結構おられるんですね。同じような年代の方がそれぞれ同じような悩みを抱えて、小さなお子さんを育てながら働いている環境で、共有できたり相談できたりという環境もあるので、休みの取り方にも理解をいただきやすいというのがありますね。

——内山さんはいかがですか？

内山さん 15年ぐらい前になるんですが、1年間育児休暇を取った後、復帰させてもらいました。育児勤務にも何通りかありまして、終業が一番短くて3時半くらいまでかな、4時半とかいろいろパターンで、こちらで選択できるんです。最初はすごく不安があったので、短い時間で

働かせていただきました。それをやりながらもうちょっと長く働けないかなと、3年4年と働いた後で、時間を長く変更しながらフルタイムに戻していききました。やはりいきなりフルタイムではなく、段階的に時間をどんどん延長していったのが最後に通常勤務に戻ることができたのが私は合っていて、すごくよかったですね。私はこの制度を子どもが小学校3年にあがるまで最大限使わせてもらってフル勤務に戻つて、育児勤務の制度とそれを取りやすい環境のおかげで、こうやってずっと勤務がつづけていられるのかなと思います。

——取りやすい職場というのが大きいと思います。制度があっても取れないでしょうし、皆さんがそういう意識でおられる、さつきもおっしゃったように浸透している。

内山さん 今が一番いい環境だと思います。私が育児勤務の時は何となく後ろめたさもあったんですけど、今はもうそんな感じではなく、逆に



祭仕様のローズちゃんとネギポ

「早く帰らない、時間だよ。」というようにない雰囲気ができていると思います。

——副店長さんのワーク・ライフ・バランスはいかがですか？

長谷川さん あまり実感がありませんけど、仕事と家庭というところ、今年ちょうど子どもは大学1年なんですけど、小さいうちは、運動会とか少しでも出てあげないといけないかな。休みやすい雰囲気といいますが、店自体がそういったことで、みんなが自分の都合とか家庭のために何か、男は役に立たないって言われるんですけど、そういった小さいことでもできたので、僕より子どもたちが喜んでくれました。



「休暇が取りやすい雰囲気、周囲のサポートもいい職場です」とネギポ（右）に語る高橋さん（左）と内山さん（中央）

——最後になりましたけど、住んで楽しいまちになるために米子市に望むことを教えてください。

長谷川さん 雇用の創出を米子市の未来のビジョンとしてやってほしいですね。子どもが大きくなって地元からみんな出て行ってしまふ。大学を卒業して米子に帰って来ても働く場所がない。企業誘致も含めてそのあたりを取り組んでほしいですね。

高橋さん 個人的なことになりましたけど、やはり保育園の数が足りていないと感じます。自分の子どもも二次募集で受かったんですけど、本来だと自分の望んだところに入れるのが一番の理想だと思います。

内山さん 弓ヶ浜公園に子どもさんを連れて行った人が、小学生や中学生の遠足と重なって遊べなかったと聞きました。うちの子も高校生なんですけど遠足が湊山公園だったんですよ。高校生とかと一緒に遊べないかとお子さんは遊べないのではないかとと思うので、ぜひ外で遊べることをもっとつくってほしいですね。

働きやすい環境を作ること、職場復帰のハードルが下がっていったね。

